

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	養老の泉パートII		
所在地	大分県豊後大野市大野町大原1186-1		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	厚生労働省のサーバーへ移行中につき、現在公表されて折りません
----------	--------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府宅番館1F		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の年齢層が、若い方で70歳、最高齢で98歳と幅広く、ここの思いを大切にしている。
 ・誤嚥性肺炎の可能性が高い利用者が入所されたこと、また、自分の歯の方が3名いることで、口腔ケアに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季を満喫できる豊かな環境の中で、法人内の2つのグループホームが同敷地に隣接して、昨年、開設されました。言葉がけと気配りを大切に、利用者一人ひとりの特性を活かしながら、利用者を支える職員の姿勢が伺えます。明るく家庭的な雰囲気大切に声かけの中で、一人ひとりを尊重しながら、ゆったりとした日々の生活を支える様子が感じられます。近隣への認知症への理解を深めながら、地域の一員としてのお付き合い作りに取り組む意向と対応策を思案しており、更なる、施設の向上に期待が持たれます。利用者本位の柔軟で臨機応変な支援への取り組みに向けて、家族との協力体制と職員のチームワークの中で「安らぎ」ある支援に努める姿が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念を考え、今現在、理念に向かっていくように取り組んでいるところである。	現状に即した理念の実現として、「利用者中心・笑顔とチームワーク」を礎に、理念に沿った支援に努めています。地域の方への理解を日頃から意識しており、地域密着型施設としての意義を全職員で思考しています。	管理者は、理念を継承していく大切さを実感しており、職員一人ひとりの「和」チーム作りに取り組む姿勢が伺えます。新人研修等を行いながら、施設の向上に努める意向に、一層の期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交通安全の街頭指導や神社の清掃作業などに参加している。	自治会に加入しており、利用者の健康状態を考慮しながら、行事(餅つき・しめ縄作りなど)に参加しています。地域の政策に職員が参加するなど、地域とのお付き合いを大切にしている様子が伺えます。	近所付き合いの充実を、今後の課題として取り組んでいます。施設内での毎月1回の喫茶の日の利用などが図られる中で、全職員の積極的な協力体制を基盤とした取り組みに、大いなる期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症の方の事例を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域の方、利用者、医師も参加してくれている。その中で意見はほとんどなく、会議の進行の仕方の工夫を検討中である。	行事(敬老会・こ代祭り)とタイアップでの開催では、利用者の様子を察知できる会議の場も提供されています。会議での意見等は職員に伝達されており、施設の質の向上に向けて活用されています。	充実した会議への取り組みとして、市役所の方から進行についてのアドバイスを受けるなど、現状に即した議題選択と内容の充足した活発な会議に向けての取り組みに、更なる期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か問題があれば、直接、市役所介護保険課の担当者への連絡をして、相談をしている。運営推進会議の後などに、相談等している。	運営推進会議後に個人的に意見を伺ったり、電話で指導を仰ぐなど、情報は日々の支援に役立っている様子が伺えます。	地域密着型サービスの充実に向けての取り組みとして、行政に施設の現状を発信しながら、公的視点からのアドバイスや意見を得る働きかけなど、市町村との、より活発で積極的な連携に期待が持たれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、勉強会を行っていて、その中で、勉強した。この議題については、年に1回は実施するようにしている。	法人・施設として研修を重ねています。利用者一人ひとりの状態を観察する中で、癖を把握し、制止するのではない言葉かけ等の大切さを職員は理解しており、チームで見守る中で、自由な暮らしを支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、勉強会を行っていて、その中で、勉強した。この議題については、年に1回は実施するようにしている。今年、チェック方式で自己評価をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、安心サポート事業を受けている利用者がある。入所時に、御家族に必要な性を説明し、利用に至った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、時間をとって説明するようにしている。料金、損害賠償、終末期についての話は、具体的にできるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、意見や苦情の窓口の説明をしている。意見等が出た時は、所定の様式に記入し対応している。	家族と職員間のコミュニケーションの充実に努めながら、希望、要望、意見など家族の思いの把握に取り組んでいます。個々の思いの反映に向けて全職員で取り組む姿勢が伺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞き、それについて会議などで検討している。	職員間で話し合える関係づくりを大切にしており、お互いに意見や要望が発信できるチーム作りに努めています。ハード面やソフト面の気づきと改善に向けて、自由に積極的に意見を出せる雰囲気大切にすることで、日常の介護に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制は、労働基準法にのっとり適正に作成している。経営者も、できるだけ現場に出向き、現状を把握するようにしている。が、現在、いかにモチベーションを高めていくかが課題となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会を実施している。外部の研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホームネットワークという組織に所属しており、研修の際には、積極的に参加させてもらっている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まった際には、入所前に本人に会いに行き、本人としっかりとコミュニケーションを取るようになっている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、または入所時には、御家族の要望、思い等を伺うようになっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の同意を得て一旦入所されたが、御家族の思いが変わったため、地域の方や担当ケアマネと話し合い、2か月で在宅に戻られた方がいる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲んだり、同じテーブルについて話しながら食事をする側、される側の関係はない。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にとって、一緒に考え、本人が安心して生活できるように支援しています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで行っていた美容室に行ったり、御家族との電話を十分楽しんでいただいたりできるように配慮している。	利用者一人ひとりの生活習慣や興味・得意分野を把握する中で、生活の糧として心豊かに暮らせるよう支援に努めています。利用者の思いを尊重しながら、馴染みの関係を大切に、安心感のある生活を支えています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣接のグループホームにも行き、利用者さんの関わりに幅がある。ホーム内でも、利用者さん同士の関わりが活発である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された方の面会に利用者さんと一緒に行っている。 御家族とも話ができた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いはあっても、遠慮からか言い出せずにいる方が多いので、できるだけ、声かけし思いを伺うようにしている。一人暮らしをしたいと希望される方がいるが、現在その思いに十分に対応できていない。	チームとして職員間で情報を共有しており、一人ひとりの利用者が家庭(施設)の中で暮らす一員であることを意識しながら、日常の様子、会話の中から思いの把握に努めています。また、集団の中でのコミュニケーション作りにも配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、環境等は、入所時に家族の方から聞き取り、フェースシートに記入している。 また、入所後も、暮らしのヒントとなる情報は追加し職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース検討会、臨時の検討会を開き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からの意見を伺いながら計画作成し、モニタリングも、職員も参加するようになってきた。 より、現状に即したケアプランを作成していくことが今後の課題である。	入所時に利用者や家族から聴取した意見、要望、生活歴に基づいた計画が策定されます。モニタリング(毎月)やケース検討会では、現状に即した計画の見直しが進められており、本人の思いを大切にした介護計画の作成に努めています。	見直しのサイクルの活性化策としてケース記録表の改善など、活発なケース検討会に努めており利用者本位のより充実した計画の策定に取り組む様子が伺える中で、より一層の期待が持たれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録表を改良後、プランの実施結果を意識した記録ができるようになってきている。また、本人の言葉や観察したことなども記録し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内の広いホールへ出向き、隣のグループホームの方と交流したり、御家族が宿泊されたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコミュニティーセンターで行われる催しに参加したり、保育園児との交流する機会を設けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後、これまでの医療機関での受診が困難な場合は、本人やご家族の同意を得て、ホームの近くの医療機関に変更させていただいている。その際には、紹介状をいただくようにしている。	近くの医療機関の協力により年1回の健康診断を行い、2週間に1回の往診に来ていただいています。健康な方も4週間に1回必ず受診し、家族のかたには面会時や電話で報告を行っています。また他の医療機関を受診される方にも職員が付き添い適切に支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、いつでも連絡が取れるようになっている。夜間でも急変時の報告や、相談等行える体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを送っている。入院後も、病院内の相談員の方との情報の共有を行っていて、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、家族、主治医、事業所の3者での、会議(利用者の現状、これからの事等を話し合う)を開いている。 3者が現在の状況やこれからの方向性について共有しておくことの重要性を感じている。	契約時に意思確認はしていますが、状況に応じて家族と話し合いを行い、主治医とも連携を取りながら方針の統一をはかっています。看取りの経験から職員の体制も出ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1度は勉強会で取り入れている。 心肺蘇生術は、年に1回しても忘れがちなので、一覧表にして、いつでも見られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3か月に1回、避難訓練をしている。 スプリンクラーを整備している。 運営推進会議の中で、地域の災害弱者の名簿の中に、ホームの老人を入れてくれる事になっている。	地域の消防団の協力も得て、隣接のグループホーム「養老の泉」と一緒に避難訓練をしています。すぐ近くが消防署という立地条件もあり、協力体制が整っています。	夜間に関しては職員だけでは誘導の限界もあり、地域の方々の協力体制を構築されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導後は、トイレの外で待つことや、排泄時は、バスタオルをかけること、トイレの声かけは耳元で小さく声かけをしている。	年1回プライバシーや接遇について研修をしています。入浴介助は同姓の職員が行い、名前の呼び方など誇りを傷つけないように工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に耳を傾けるように努力している。 思いを支援できない場合も、利用者に納得していただくように丁寧に話をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を重視するよう職員全員が意識しており、一人ひとりのペースでの生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時は本人と一緒に服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はほとんど職員が行っているが、同じテーブルで一緒にいただいたり、利用者が自分たちでお皿を重ねてくれたり下善したりしている。時には、希望の団子汁やおはぎを作ったりしている。	職員、利用者が一緒に楽しく食事をしています。献立などの話し合いはおやつの時間にし、希望のメニューを出し合います。お正月など行事のときにはお酒なども楽しみにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の体調に合わせて、ご飯の量を調節したり、おかゆにしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。 一人ひとりの口腔内の状況により、歯間ブラシや舌ブラシ、クルリーナブラシを使い分けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排便の自立支援 排便の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排便のパターン、習慣を活かして、トイレでの排便や排便の自立にむけた支援を行っている	入所時はおむつを使用していた方も、現在はリパパン使用、トイレ誘導を行い、トイレでの排便を促して行っている。日中は可能な限り布パンツに履き替えている。	時間を決めてトイレ誘導することで個人個人の排便パターンを把握出来ています。夜はおむつに頼る人もポータブルトイレで出来ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い玄米を摂取されている方、歩行や、体操を取り組まれている方等いらっしゃる。それでも便秘がちの方は、下剤を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めさせていただいているが、入浴を拒む方に関しては、いつでも入浴にお誘いできるように、全職員で共通理解している。また、失業してしまった方なども、いつでも入れるようにしている。入浴しない日は足浴できる様にしている。	希望の時間や順番に沿うようにし、脱衣所には暖房器具を置くなど快適に入浴できるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるようにはしているが、強制ではなく、個人の生活パターンに応じて対応している。夜間不眠のため居眠りをされている方も無理には起こさず、危険の無いように見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬袋に現在内服中の薬の薬名、作用等を記入した表を作っており、全職員が確認できるようにしている。また、新しい薬に変更したときは、副作用の発生の観察に努め対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでいただいたり、団子汁やおはぎを作ってもらったりした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブに行っている。御家族と外出される方もいる。温泉に行きたい希望があるので、今後ぜひ実行したいと考えている。	近くの美容院、コンビニなど希望に沿って出かけたり、季節ごとにお花見や、お参りに出かけています。また家族の方と外出や外泊などにも積極的に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に何度か近くのスーパーに買い物に行っている。自分で商品を選び、自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の人に手紙やはがきなどを書いている。家族からの贈り物が届いた際には電話をかけて、話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節の飾りを飾ったりしている。 天井が吹き抜けで、日の光がまぶしくないように、いつでもよじずをひき、遮光できるようにしている。 食事前にはご飯の炊ける匂いが漂っている。炊きたてのご飯を食べるようにしている。	リビングの真中に掘炬燵、それを囲むように居室、トイレ、お風呂、キッチンがあるため、どの部屋からも明るいうリビングが見渡すことができます。壁は利用者の絵や俳句などが飾られ、ゆったりと過ごせる工夫がされています。またテレビは常時つけているのではなく、見たい時だけつけることとし、自分の思いを話す時間が大事と考えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方は、自分の部屋に戻ったり、ソファも置いていて、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染のものを持ち込んでいる方、家族の写真を壁に飾っている方、自分の届く範囲にものを置いている方等一人ひとりが自分の空間を居心地良く過ごせるようにしている。	それぞれ一人ひとりが個性的に仏壇、遺影、冷蔵庫を置いたり布草履を纏むスペースを作るなど自分本位の居室づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや車椅子、歩行器を使用し、本人の安全、自立に向けて生活できるように支援している。		